

新ライティングマニュアル

0.はじめに

1. 記事はどうやって書けばいいの？
2. 記事を書く時に大切なこととは？
3. 記事の構成はどうすればいいの？
4. 画像と動画について
5. 最終チェック
6. 終わりに

- 著作権および守秘義務契約

このマニュアルは著作権法で保護されている著作物です。

著作権者の許可なく、このマニュアルの全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

著作権等違反の行為を行った時、その他不法行為に該当する行為を行った時は、関係法規に基づき損害賠償請求を行う等、民事・刑事を問わず法的手段による解決を行う場合があります。

※本マニュアルの内容を外部に漏らすことなく、本業務においてのみ使用いただければ問題ありませんので、ご安心ください。

0.はじめに

このマニュアルを暗記できるまで読み込めば必ず質の良い記事ができます。

自然に内容を思い出せるくらいにまで読み込んでくださいね。

1. 記事はどうやって書けばいいの？

と問いかける前に逆に質問します。

「皆さんが記事を作る目的って何ですか？」

- ・ライティング技術を磨きたいため
- ・文章をもともと書くのが好きだから書いていたい
- ・将来ライターとして起業したい

皆さん色々な目的があると思います。

その目的もそうですが、記事を作る上でこれらより重要なことがあります。

それは、「**読者に価値のある情報を届けること**」です。

こう言いますとこのように思う方がいると思います。

「じゃあ、**価値のある情報**って何なの？」

この答えは簡単です。

答えは、「共感してもらうこと」です。

皆さんもスマホやPCで検索していたままたま読んだブログの内容が

「あ～！それわかるわ～」

「こんな方法があるのか！」

と思うことがあると思います。

そして、例えば美味しい店を紹介されてその店が近かったら実際に食べに行った、、と言うこともあると思います。

この記事を読んで「それわかるわ～」と言うことに人は価値を感じます。

そういう記事を創ることができるとライティング技術はめちゃくちゃ上がります。

そして、そういう「共感できる」記事を1人でも多くの読者に届けていく。

それが記事の役割です。

今回はネットで公開するための記事に対するライティングマニュアルなので、キーワードで検索された時に

「何ページ目に出てくるか？」

と言うことがものすごく大事になってきます。

せっかく皆さんが一生懸命作成した記事が100P目、はたまた検索しても出てこない、、となったら読まれることはありませんよね。

誰かに読んでもらうためには

「指定したキーワードで検索された時に検索 1P目に記事が出てくること」

がかなり大事になってきます。

しかし、この技術、正直言ってかなり難しいです。

これができたらそれだけで家族 4 人くらいでしたら十分生活できるスキルになります。

ただ、方法はありますよ。

「公開してすぐに上位表示！」と言うのは流石に無理ですが、時間が経てば皆さんの記事が表示されるようになる方法があります。

その表示される方法をしっかりと頭に叩き込んでいきましょうね。

2.記事を書く時に大切なこととは？

(1) 機能的価値と感情的価値

例えば「肌荒れ 原因」とかで検索しますと、「肌荒れの原因について」アホみたいに記事が出てきますよね。

そして、ほぼ同じような記事が数百、中には数千くらいあります。

開いてみたら中身もほぼ同じだったりします。

そういう市場で皆さんが作成した記事を読んでもらう必要があります。

その似たり寄ったりの記事の中で

「自分が書いた記事が読んでもらえる」

と言うことはライティングスキルがかなりあると言っていいことになります。

「じゃあすでにあるほぼ同じような記事と差別化して自分の記事を読んでもらうにはどうすればいいか？」

を考えなければなりません。

説明する順番を変えたり、語尾を「～けん」に変えたとしても内容は変わらないし、単なる阿波弁になっただけになります。

ここで他の記事を差をつける方法はたった1つだけです。

皆さんも使ったことがあるものすごい簡単なスキルですよ★

他の記事と差別化するのに必要なことは

「**自分の感想**」であり、

「**自分の成功経験や失敗経験談**」を入れることです。

これを**感情的価値**と言います。

感情的価値が入っていないと、そもそも記事がおもしろくないですよ。

具体例がwikipediaです。

ちょっとした物事を調べるのにはwikipediaは最強ですが、それを読み込もうとする気はないですね？

特にwikipediaで「古事記」とか調べたらそれだけで眠たくなる内容になります。

世の中に公開されている記事はこの辞書みたいな記事がかなり多いです。

その辞書みたいな記事に差をつける方法が「感情的価値」が入った記事になります。

「自分の感想」や「経験、失敗」は他人には真似できません。

あなただけしか持っていないものですので、真似しようがありません。

そうすれば、書いている内容はほぼ同じでも中身が他の記事と違う世界に1つだけのオリジナル記事が出来上がります。

これが真似されることのない自分にしかかけない記事の作り方になりますよ。

そして、「自分の感想」や「経験、失敗」をただ事実として言うのではなく、ストーリーとして書いていきますと文章が生きた内容になり、読者にも共感されやすくなります。

具体的にガンガン自分の主張を入れてくださいね（^^

法律に違反する内容はNG（例えば人を殺せ、とか戦争をしろ、とか）ですが、そうでなければガンガン入れて頂き、その記事の風景が思い浮かぶか、イメージできるかがとても大事になります。

悪い例

「私は以前婚活パーティーに参加しました。そこには色々な女性や男性がいて1人3分以内で自己紹介をして回転すし形式で回った後フリータイムになりました。私はいいひとがいなかったのでそのまま帰りました。」

良い例

私は以前婚活パーティーに参加しました。

そこでは男性5名、女性5名の合計10人の参加者がいました。

参加者の男性の内1名（Aさんとします）の紹介になった時に

A「Aと言います。特技は大食いです。」

と言ってその場にあった三人前くらいはあるちらし寿司を一気に食べました。

それをみた女性参加者が面白く感じ、

女性「じゃあこれ食べてみて」と言うことで今度は7人前の刺身盛り合わせを持ってきました。

A「余裕余裕」

と言いながら7人前の刺身盛り合わせも5分で全て平らげてしまいました。

これを見た周りの女性達、さらには男性参加者からも達成できたことによる拍手が出てました。

なお、その時のパーティーは特技の大食いを披露したAさんの印象が強すぎて、私は埋もれてしまいました。

しかし、「趣味や特技を全面的にアピールしたら強い」と言うことがわかったため、私としてはいい経験になりました。

このように、淡々と「婚活パーティー」に行ったことだけを話すのではなく、その時に思ったことも含めて話しまくってストーリーを作ります。

すると、人はストーリーだと話が面白くて読みたくなります。

このストーリーの力を使って自分の意見や感想を入れていくと、普通に書くとつまらない事実でもどんどん魅力的な記事に変わっていくことができます。

この感情的価値とは対照的に、誰が書いてもほぼ同じ内容の物もあります。

それを**機能的価値**と言います。

例えば、ローソンを題材にした場合、ローソンのフライドフーズ、弁当、場所、看板の色などの情報は誰がどう書いても同じになります。

誰が書いても不変の情報になります。

一般的に良い記事と言われる記事は「感情的価値」で構成されています。

悪い記事は「機能的価値」ばかりです。

先ほども紹介しましたが機能的価値の代表はwikipediaです。

難しい概念を読んでいたなら眠たくなりますよね。

そう言うのを求めている人にはそれがいいのかもしれませんが、ほとんどの人は感情的価値を求めています。

なので、「記事を面白くしたい」と思ったら感情的価値を入れまくらないといけません。

そうすれば自然とみんなに読まれる記事へ変わっていきます。

(2) ライバルチェック

キーワード検索して上位3サイト、理想は1P目は全て見ていただいて、自分が書こうとしている記事のライバルの質をチェックします。

そして、そのサイト達よりもまとめて役に立つ記事を書くつもりで書いてみてください。

コツとしては、検索3位以内の記事と自分の記事があったとして

「どの記事が一番読みやすくておもしろいのか？」

上位記事と比べた時に、自分が読んで一番役に立つと思う記事が自分の記事であることを目指してみてください。

それはつまり、他の方からしても役に立つ記事と言うことになり、多くの人に読まれる記事になります。

初めは難しいと思いますが、感情的価値を入れまくって上位記事に食い込んでいく可能性は十二分にあります。

案外、読んでいて「辞書？」「何言ってるかわからない」という風に突っ込みたくなる機能的価値ばかりの記事は上位記事でも結構あります。

そこにあなたの感情的価値をふんだんに入れまくった記事が出てくると、他の記事にはボロ勝ちできますよ。

良い記事を作るといろいろな人に読まれます。

それが良い記事の条件になります。

(3) FABを意識する

FABという言葉聞いてわからない方が多いと思いますが、これは良い記事を作る上で欠かせないものすごく大事な考え方になります。

F:Feature (特徴)

A:Advantage (利点)

B:Benefit (利益)

具体的に言いますと

F（特徴）とは、「このハサミはステンレス製です」

A（利点）とは、「他のものと比べてサビが発生しにくいです」

B（利益）とは、「サビが発生しないので、長い間鋭い切れ味を保てれます」

記事を読んでいるほとんどの人が知りたいことはBです。

ハサミをオススメしたい時に

「このハサミはステンレス製です。すごくないですか？他の物と比べてサビが発生しにくいです。絶対オススメですよ」

と言われても誰も買う気にならないと思います。

Fばかり説明しておりますので。

下手なサイトは、このF、つまり機能ばかり説明してA,Bをちょっとしか説明していないことがほとんどです。

セブンイレブンを例にすると、

「セブンイレブンの立地、商品の値段最高でしょう！」

と言う宣伝は下手くそになります。

セブンイレブンで買い物した後はどう言うことが待っているかを感情を入れて教えてあげることが大切になります。

Fは機能的価値になりますので、誰が書いても同じ内容になります。

ここばかりを説明する記事は誰にも読んでもらえません。

A,Bをメインに紹介して感情的価値を入れまくるのです。

何度も言うておりますが、感情的価値B、そしてAを記事に入れまくるのです。

Fの機能的価値はあくまでオマケ的要素として入れていくものになります。

一番人に響くと言われている順番はBAFの順番に説明することです。

結構下手くそな記事はFABの順番に説明していることが多いです。

これをBAFの順番で説明できるようにしていきましょう！

自分の記事がグッと魅力的になりますよ（^^）

B→A→F

今度はPCチェアを例にして説明していきましょう。

F→座椅子の高さは70cm

A→座椅子の高さは調整でき、背もたれ、肘掛、足掛けが付いている

B→長時間作業でも疲れなく、足も伸ばしてリラックスした体制で作業できる

悪い例

(F)この座椅子は高さ70cmです。すごい！他の椅子と比べたら一番日本人の高さにあっております。

(A)この座椅子の高さは調整でき、背もたれ、肘掛、足掛けが付いております。

(B)PCで長時間作業する方って疲れますよね？そう言う時に「背筋をピン！」と伸ばしたいと思ったことはありませんか？この座椅子なら背も

たれもリクライニングにすることができますので、「ちょっと疲れたな」と思った時には背もたれ、足掛けを伸ばしてリクライニングすることによって座ったまま背筋を伸ばすことができます。その体制で5分程度休憩しますとスッキリしますよ。

良い例

(B)PCで長時間作業する方って疲れますよね？そういう時に「背筋をピン！と伸ばしたい。」と思ったことはありませんか？この座椅子なら背もたれもリクライニングにすることができますので、「ちょっと疲れたな」と思った時には背もたれ、足掛けを伸ばしてリクライニングすることによって座ったまま背筋を伸ばすことができます。その体制で5分近く休憩しますとスッキリしますよ。

(A)この座椅子は高さ調整もでき、背もたれ、肘掛、足掛けも付いております。

(F)この座椅子は高さ70cmで日本人の高さに一番あっております。

Bはイメージです。イメージできましたでしょうか？

イメージさせるために感想や意見を入れてイメージできる。

良い未来をイメージできるようにしていきましょう。

それが良い記事の条件になります。

3. 記事の構成はどうすればいいの？

まず記事の構成の基本といたしまして

- ・ 記事タイトル
- ・ 導入文
- ・ 見出し、本文（見出しと本文の数は適宜追加してください）
- ・ まとめ

の流れで作成していくことが必要です。

この流れは鉄則になります。

導入文はユーザーがその先の記事を読み進めるかどうかに関わってきますので非常に重要です。

この部分は、記事全体の内容がどんなことがかかっているのか、興味を引くような表現で概要を書いて頂くようお願い致します。

記事のタイトルは28字～32字でおさえるようにしてください。

28字を超えますと、超えた部分は検索画面に出てきませんのでご注意ください。

そのためにも、指定したキーワードは左側に持ってくるようお願い致します。

そして、タイトルは疑問形「？」や「何故か？」「理由は？」「対処は？」

と言う感じで興味をそそるような内容で終わらせることが大事になります。

タイトルで結論を言ってしまうと記事を見てもらうことが無くなります。

数字や?などは半角で記入をお願いします。

さらに付け加える要素と致しまして、

記事タイトルと最初の見出しは極力同じ内容にしてください。

この方がアクセスが良い傾向にあります。

最初の見出しで、読者が疑問に思っていることを解決させてあげて、次に本文へ流していく、

こう言う形で作っている記事がアクセスも良いですし読まれることが多いです。

4.画像と動画について

著作権フリーの無料画像を使ってください。

どこかのサイトの画像を勝手に引っ張ってきて使用しないでください。

著作権法違反で懲役10年以下、罰金1000万以下の有罪判決が下りますよ。

そうならないためにも、慣れてない方は以下のサイト以外の画像は使用しない方がいいですよ。

[ぱくたそ](#)

[タダピク](#)

[O-DAN](#)

私はO-DANかぱくたそからほぼ100%使っておりますので、この2つを押させておけば大丈夫です。

※O-DANを使う場合の注意点として、「free download」と書かれているものを選んでダウンロードしてください。

間違ってもshutter stockの画像をダウンロードしないでくださいね
(有料です)

O-DAN使う時の注意点はこちらを参考にしてください。

O-DAN使う時の注意点

動画はyoutubeで探して、基本的にURLをそのまま載せてもらえば大丈夫です。

キーワードにあった動画がなければ必要ありません。

youtubeで貼り付けていいかどうか判断する方法はこちらを参考にしてください。

youtube貼り付けていいかの判断方法

※これ以外にも無料画像サイトはいっぱいあります。

「無料画像 商標フリー」とかで検索すると出てきますので、そこを使ってもいいですよ。

ただし、条件と致しまして、

「無料画像で商用利用が可能であること」

は絶対に守ってくださいね。

5 最終チェック

最初から「**全てを完璧に**」できるのは難しいことです。

まずは少しずつできるようにしていきましょう。

これらのポイントを意識して書くという「姿勢」が何よりも大切になります。

タイトル

- ・ 記事キーワードは左端から順番に入っているか
左に行けばいくほど重要なキーワードがある方が良いですがあくまで自然な日本語になっていないとダメですよ。
- ・ タイトルの文字数は28字以内か
- ・ !や?、数字は半角英数にしているか

- ・ 読者が読みたくなるポイントを盛り込んでいるか?
(今のままの残念な未来、理想の未来、簡易性)

導入文

- ・ 記事の内容を簡単に紹介しているか
- ・ どんな人が読むべきか、どんな悩みの人のための記事か
- ・ フックの文章自体長すぎないか

本文と見出し

- ・ 読者の悩みに「共感」できているか?
※自分の体験談＝ストーリーや感情を盛り込んでいるか
- ・ 「恐怖」を煽って、続きを読みたくなるようになっているか
- ・ 記事を読んでいなかったらどうなるか?自分自身知る前はどうか?
たか?
- ・ 読者の人物像は具体的に設定できているか (リサーチした上で)
※性別は?年代は?職業は?キーワードに隠された悩みは何か?
- ・ 読者にとってわかりやすく、見やすくなっているか
※ポイントは過剰書きにする、まとめを作る、番号をふる等

最後

- ・本文中のポイントをまとめているか
- ・まとめを読むだけで書いていることの概要がわかるか
- ・1画像以上入れているか（合う動画があった場合は動画もあった方がいいです）

特に重要なことは

「共感」と「不安解消」です。

読んでいて共感してもらえるか？

「わかるわ～」と思ってもらえるポイントはあるか？

例えば、昔成績が悪くて高校行けるかどうか危うかったとか

タイトルに不安を掲げ、記事を読み終わった後に「役に立った～」と思ってもらえるか？

例えば、タイトルに「子どもを何故怒っては行けない？」とし、記事内に答えとして「怒らずに何故そう言うことをしたのか聞いてあげることが大切。なぜなら～」みたいな感じですか。

6.終わりに

ここまで読んでいただきありがとうございます。

一回読んだだけでは絶対理解できませんので、なんども繰り返し理解するまで読んでください。

できれば印刷推奨です。

このマニュアル通りに書けば間違いなく良い記事が書けます。

この知識を

「知っているか？」

「知らないか？」

これだけが良い記事を作れる人と作れない人の差になります。

このマニュアルを読まれた方はこれで正しい知識を知りました。

あとは、

覚えて、実践し、慣れていく。

これだけのことです。

もし疑問点がありましたら質問してくださいね。